

船井情報科学振興財団 留学報告書 2015年11月

長野光希

Web: <http://luminohope.org/>

毎回このレポートを書くときに思うことですが、今年の秋で留学生活も4年目に突入しました。4年目というと、卒業に5-7年かかる米国博士課程の学生の中でも「シニア」扱いで、友人との会話も卒業後の進路や、博士論文に向けての進捗などを話すことが多くなってきたように思います。授業も履修が終わったので、現在は聴講という形で興味のある授業を受講しています。USCの工学部は、オンラインの授業が全米で最も整備されている¹ようで、自宅で授業の録画を見たり、オンラインでクラスに質問したり、リソースを共有する設備があり、研究室がオフキャンパス（キャンパスまで車で30分ほど）にある自分としてはとても助かります。

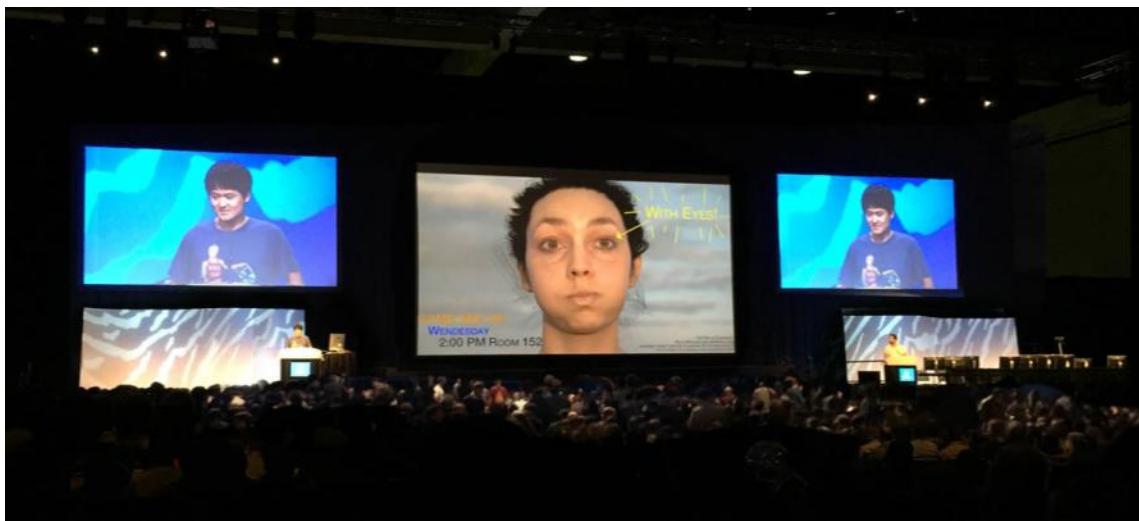


授業をストリーム配信している様子

研究では、この夏に前回のレポートで報告した論文を SIGGRAPH 2015 で発表しました。今年は 15000 人近くの参加者があったようですが、学会の初日には、Papers Fast Forward という、論文の採択者全員に 30 秒だけ与えられ、参加者全員に対して自分の論文の発表に来てもらうようにピッチを行うセッションがあり、登壇しました。人によって、論文の内容を単に 30 秒にまとめた真面目な発表をする人もいれば、テレビ CM のように宣伝したり (<https://www.youtube.com/watch?v=igE3usIHeRU>)、何かのパロディで面白く動画を作

¹ <http://news.usc.edu/73349/its-a-threepeat-for-top-ranking-of-usc-viterbis-online-programs/>

る人(<https://www.youtube.com/watch?v=IGPyjWsHXrI>)、壇上でコントをするなど色々な人がいます。実際にライブで喋って紹介するのが1番インパクトがありますが、30秒で英語で的確に喋るのは簡単でないので、アジアなどの英語が母国語でない国の学生は動画を作ることが多いようです。僕も喋るのは最小限にして動画を作ることになりました。前回のレポートで報告した通り、研究が色々な人の目に留まったおかげで、夏のロンドン交流会の折には、インペリアルカレッジロンドンでセミナーをさせてもらったり、企業のトークなどに呼ばれたりしました。それまでは全く無名でも、結果を出すと、研究者や企業の同業者などが声をかけてくれるようになるので、アカデミックの世界は頑張りがいいように思いました。



Papers Fast Forward の様子

SIGGRAPH の Technical Papers は、採択されるか否かで、卒業が1年前後することもあるほど CG の分野では重要な国際会議で、締め切りが例年1月中旬にあるので、教員学生含め多くの研究者が、クリスマス、年末年始は研究室に残り、働くことになります。来年いいことがあるように今年も頑張ろうと思います。

また、去年の報告書で報告した授業の最終課題でおこなったプロジェクト (<http://www.funaifoundation.jp/scholarship/201412naganokoki.pdf>) を国際会議に投稿し、神戸で行われた SIGGRAPH ASIA 2015 という国際会議で発表しました。授業でやったものを研究成果につなげられたのはよかったです。

今のところ研究室から RA をいただいて研究を継続することができていますが、今後は、海外の奨学金獲得なども目指して研究に励んでいきたいと思っています。